

# 歯周病

periodontitis

歯周病というと、「口の中だけの問題」「歳をとったらだれでもなる」と考えている人は多いでしょう。

しかし現在、歯周病が全身の怖い病気のサインや引き金になることが解明され、急速に歯科と医科の連携が進んでいます。

今月は、家族と自分の健康を守るうえで、ぜひ知っておきたい歯周病の新常識を、若林健史先生にお聞きしました。

**A Q**

## 歯周病とは？

### 原因菌が歯槽骨を溶かす

口の中には、およそ400種類以上の細菌が棲息しているといわれています。そのうち数種類の歯周病菌によって、歯ぐきが炎症を起こし、歯を支える歯槽骨という骨が溶けてしまう病気が、歯周病です。このうち、歯ぐきに炎症が留まっている状態を歯肉炎、骨が溶けはじめている状態を歯周炎と呼びます。

歯周病発症の原因は、ひとと言で言うと歯の磨き残しです。歯周病

菌は空気を嫌うので、歯と歯の隙間や歯ぐきとの境目などに溜まつた食べかすの中で繁殖し、ネバネバした歯垢をつくります。すると体が、細菌に対抗する白血球を送り込もうとして血液が歯ぐきに多く集まるため、歯ぐきの毛細血管が膨らんで赤く腫れ、歯磨きなどの、ちょっとした刺激で出血します。これが放置されると、歯ぐきがやせて縮んでしま

現在、30歳以上の日本人の約8割が歯周病だといわれています。通常、歯肉炎から歯周炎に進行するには、何年もかかります。しかし、細菌の種類や口腔の環境によっては急速に進むこともあります。また、近年では小学生の歯肉炎もまれではないため、若い世代の歯周



教えていただいた方は……



若林健史先生

わかばやし・けんじ／若林歯科医院院長。日本歯周病学会専門医・指導医。日本臨床歯周病学会認定医・専門医。1982年、日本大学松戸歯学部卒業。東京都練馬区若林歯科医院を経て89年、渋谷区にて開業。昨年、現在の渋谷区恵比寿に移転開業。日本歯周病学会理事、日本臨床歯周病学会副理事長などを重職を兼任。歯周病の危険性と正しいケアの必要性を早くから説き、講演・セミナーでも活躍。